

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.142
2016/2/15

目 次

理事会報告.....	1
第 32 回年次大会に向けて：参加申し込み方法、暫定プログラムなど.....	1
中東研究の国際交流—北米中東学会第 49 回年次大会参加記—.....	10
AJAMES 編集委員会報告.....	13
寄贈図書.....	13
会員の異動.....	14
事務局より.....	15
編集後記.....	16

理事会報告

【2015 年度第 2 回理事会】

日時：2015 年 11 月 13 日（金曜日）

場所：上智大学四谷校舎 2 号館 6 階 2-603

出席：赤堀、飯塚、江川、粕谷、栗田、近藤、東長、林、保坂、森本、森山、
山岸、山口

欠席：大稔、黒木、松本

〔議題〕

1. 2016 年度公開講演会と科研費申請について（開催と申請を承認した）
2. 「国際協力ひろば《きて・みて・楽しむ イスラム文化》ワンワールド・フェスティバル」の共催について（共催を承認した）
3. 公開講演会出張費について（学会費からの支出を承認した）
4. 2015 年度科研費（国際情報発信強化）の用途について（事務局の説明を承認した）
5. 2016 年度科研費（国際情報発信強化）申請について（申請を承認した）
6. AJAMES の今後について（国際連携の強化、外国語・日本語混在の維持、査読体制の国際化の推進、オープンアクセス化について承認し、今後の発行形態について検討した）
7. 有職学生会員に関する規則整備について（検討した）
8. 寄付金について（寄付金についての報告を承認し、用途を検討した）
9. AJAMES バックナンバーの整理について（赤堀・山口両理事に一任することを承認した）

（森山央朗事務局長）

第 32 回年次大会にむけて：参加申込方法、暫定プログラムなど

先般お知らせ致しましたとおり、日本中東学会第 32 回年次大会は、2016 年 5 月 14 日（土）、15 日（日）の両日、慶應義塾大学の三田キャンパスにおいて開催されます。

1. 参加および懇親会の申し込みについて

日本中東学会第 32 回年次大会への参加の事前申込は、参加費の振込によって行っていただきます。2 月中旬頃に大会への出欠通知、懇親会・弁当（昼食）の申込用紙を兼ねた郵便振替用紙をお送り致しますので、大会に参加される方はこの振替用紙を利用して 2016 年 4 月 15 日（金）までに参加費をお支払いください。ただし、個人研究発表および企画セッションに応募された方の参加費の納入期限は、後述のとおりこれより早く、3 月 4 日（金）です。また、懇親会費、2 日目（5 月 15 日）の弁当代などの納入も同じ振替用紙をご利用ください。

事前申込の場合、大会参加費は1,000円、懇親会費は6,000円(学生会員は4,000円)、2日目弁当代は1,000円です。事前にお振り込みいただいた諸費用は返却に応じかねますこと、予めご承知置き下さい。

大会参加と懇親会への参加につきましては、当日の会場でも申込を受け付けておりますが、事前申込と諸費用の前納に何卒ご協力下さい。なお、当日受付の場合の大会参加費は2,000円、懇親会費は7,000円(学生会員は5,000円)とさせていただきます。ただし、1日目(5月14日)の公開シンポジウムのみ参加であれば、参加費の支払は必要ありません。

弁当の当日申込はお受けできませんのでご注意ください。特に大会2日目(5月15日)は日曜日につき会場キャンパス内の食堂・購買は全て休業しており、会場周辺にコンビニはありますが、当日営業している飲食店は多くありませんので、弁当の事前申込をおすすめ致します。

振込先(郵便振替口座)

口座番号 00140-1-696367

口座名称(漢字) 日本中東学会第32回年次大会実行委員会

口座名称(カナ) ニホンチュウトウガッカイダイサンジュウニカイネンジタ

2. 託児所の設置について

託児所利用の希望を受け付けております。大会当日に託児所の利用を希望される方は、実行委員会事務局まで早めにご連絡ください。既にご連絡いただき、事務局から確認の返信を受け取られている方につきましては、重ねてのご連絡は不要です。最終的な締め切りは、4月15日(金)の予定です。託児所の費用につきましては、託児所会計の前年度からの繰越金を充当する予定ですが、利用者の方に利用時間に応じて多少のご負担をお願いいたします。

3. 研究発表について

2日目(5月15日)の研究発表につきましては、個人発表49件、企画セッション3件の応募がありました。多数のご応募をいただき、誠にありがとうございます。

暫定プログラムは後段のとおりです。今後、発表予定者の都合などによる変更の可能性がりますこと、よろしくご了解下さい。最終的なプログラム、会場への交通案内、総会議決の委任状などは4月上旬にお手元にお届けする予定です。

4. 日本中東学会第32回年次大会・暫定プログラム(2016年2月上旬現在)

開催日時: 2016年5月14日(土)・15日(日)

開催場所: 慶應義塾大学・三田キャンパス (<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>)

<1日目・2016年5月14日(土)>

13:00~17:00 公開企画

シンポジウム「インド洋海域史研究の現在」

概要：インド洋海域は、紅海・ペルシア湾・アラビア海などを内包しつつ、広大な交流圏を成してきた。その史的展開をめぐる視力の増強と視野の拡大は、中東研究の深化にとっても不可欠である。本公開シンポジウムは、中東史をインド洋海域史へと「開く」企てである。半世紀にわたって日本のインド洋海域史研究を先導されてきた家島彦一氏の講演を主軸に、多様な視座からの最新報告を交えながら、当該研究の「現在」を見定めたい。

スケジュール（仮）：

13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明 司会：新井和広（慶應義塾大学）

13:10～14:00 基調講演

家島彦一（東京外国語大学）「インド洋海域史研究の道を歩んで」

14:00～15:20 報告

上田信（立教大学）、栗山保之（東洋大学）、鈴木英明（長崎大学）、弘末雅士（立教大学）

*以上、50音順

15:20～15:40 休憩

15:40～16:50 パネルディスカッション・質疑応答

16:50～17:00 閉会挨拶

17:30～18:30 日本中東学会総会

18:30～20:30 懇親会

<2日目・2016年5月15日（日）>

研究発表 *氏名の右側の（）は所属を示す。

◇ 企画セッション(12:40～14:40)

(1) Reimagining the Politics of the Gulf Monarchies in the 21st Century

Matthew Gray (The Australian National University)

“Situating the Debate: The Case for a Reimagination of the Gulf’s Politics”

Namie Tsujigami (The University of Tokyo)

“A Strategy of Surviving Patriarchy: Women’s Family Network”

Sean Foley (Middle Tennessee State University)

“To Think outside the Box: How Saudi Women Use a Conservative Culture to Transform the Kingdom’s Online World”

Chair: Shuji Hosaka (The Institute of Energy Economics, Japan)

(2) 現代ムスリム社会における宗教権威：ウラマーとイスラーム主義者を事例として

高尾賢一郎（上智大学）

「サウジアラビアに見る職業としての「ウラマー」：ワッハーブ主義におけるその役割」

後藤絵美（東京大学）

「エジプトの「サラフィー」：人気説教師とその宗教知識」

コメント：松永泰行（東京外国語大学）

司会：長沢栄治（東京大学）

(3) 非母語話者に対するアラビア語教育と評価：アラブ地域と日本における事例から

近藤久美子（大阪大学）

「非母語話者のアラビア語習得：母語の相違の観点から」

柴谷温子（慶應義塾大学）

「モスクのアラビア語講座の特色」

宮川光圀（独立研究者）

「アラビア語検定の実施結果から見るアラビア語学習者の現状と課題」

◇ 個人発表 *Jは大学院生を意味する。

第1部会

9:00～9:40 井堂有子（日本社会事業大学／東京大学J）

「エジプトの食料補助金制度改革と食料安全保障：小麦流通問題に着目して」（仮）

9:45～10:25 西舘康平（東京外国語大学J）

「グランド・ルネッサンスダム建設をめぐるナイル川流域の地域関係」

10:30～11:10 齋藤秋生子（上智大学J）

「カッターフィー政権期リビアにおける部族政策とその変容」（仮）

11:15～11:55 山本沙希（お茶の水女子大学J）

「零細事業に従事する女性の商業形態と世帯：現代アルジェリアの首都アルジェを事例として」（仮）

14:50～15:30 今井真士（文教大学）

「権威主義体制下の二元執政制とエジプト第三共和政の政党政治：大統領職の憲法的権限の変遷と2015年代議院選挙後の党派的権力の展開」（仮）

15:35～16:15 河村有介（ダラム大学J）

「権威主義体制下における組織労働と政権：エジプトとメキシコの比較分析」（仮）

16:20～17:00 黒田彩加（京都大学J）

「屹立するイスラーム中道派の主張：世俗派と過激派の間で」（仮）

第2部会

9:45～10:25 今井宏平（日本学術振興会）

「トルコの国境管理政策：シリア国境とギリシャ国境での活動を中心に」（仮）

10:30～11:10 李若菲（慶應義塾大学J）

「交易ディアスポラと Social Remittances の社会影響：レバノンの例から」（仮）

11:15～11:55 成地草太（明治大学J）

「クリミア戦争後のオスマン帝国におけるムスリム難民支援：難民委員会と臣民による義捐金・物資の動員との関係から」（仮）

14:50～15:30 山本健介（京都大学J）

「エルサレムにおける聖地問題の史的展開と現代の変容：イスラエル領内のイスラーム運動の活動を中心に」

15:35～16:15 小林和香子 (独立研究者)

「イスラエル人女性による平和運動」

16:20～17:00 堀尾藍 (国際交流基金)

「パレスチナの初等教育における現状と課題:UNRWA による初等教育支援の一考察」
(仮)

第3部会

9:45～10:25 Scott Morrison (Middlesex University)

“Quantifying the Legal Content of Qur’an and Hadith”

10:30～11:10 Jiang Xudong (Keio University)

“China’s Role, Progress and Limitation in the Reconstruction of Iraq”

11:15～11:55 Khalil Dahbi (Tokyo University of Foreign Studies, J)

“The Evolution of Political Oppositions in Tunisia and Morocco: A Field-level Comparative Historical Analysis”

14:50～15:30 Qolamreza Nassr (Hiroshima University, J)

“Shi’a Islam and Democracy: Linkage and New Development before and after Iranian Revolution of 1979”

15:35～16:15 Takahiro Suzuki (Doshisha University, J)

“Homeland-Segregation Assemblage: The System for Normalizing and Justifying Racial Segregation”

16:20～17:00 Satoshi Abe (Nagasaki University)

“An Examination of Roles of Islam in Iranian Environmental Politics”

第4部会

9:45～10:25 宮下遼 (大阪大学)

「16世紀オスマン詩におけるトルコ語語彙の位置づけ:簡明トルコ語派詩人を中心に」
(仮)

10:30～11:10 岡崎弘樹 (パリ第3大学 J)

「現代シリアにおける監獄経験の表象」

11:15～11:55 天野優 (同志社大学 J)

「サミー・ミハエルの作品にみるファルフード」

14:50～15:30 穂山祐子 (一橋大学 J)

「トルコ共和国における新字普及:文字習得をめぐる施策と実態」(仮)

15:35～16:15 竹田敏之 (京都大学)

「湾岸アラブ諸国におけるプリントメディアの発展とアラビア語意識の変容」

16:20～17:00 勝畑冬実 (東京外国語大学)

「エジプト映画における『イスラーム主義者』の表象:1970年代から1990年代を中心に」(仮)

第5部会

9:00～9:40 近藤重人 (日本エネルギー経済研究所)

「サウディアラビアと中東和平提案」(仮)

9:45～10:25 渡邊駿(京都大学J)

「アラブ・湾岸君主制：ハイブリッド性を解析するための視座をめぐって」(仮)

10:30～11:10 白谷望(上智大学J)

「バイアの儀礼から見るモロッコの中央権力と地方の関係」(仮)

11:15～11:55 池端蒔子(京都大学J)

「スンナ派国家としてのヨルダンとその宗派・宗教和合戦略」(仮)

14:50～15:30 岡野内正(法政大学)

「中東研究の質的変容に向けて：板垣雄三氏の問題提起をめぐって」

15:35～16:15 須永恵美子(大東文化大学)

「マウドゥーディーの経済観：雑誌『クルアーンの解釈者』に寄せた論考を中心に」
(仮)

16:20～17:00 荒井悠太(早稲田大学J)

「歴史叙述におけるアサビーヤ：イブン・ハルドゥーン『実例』の分析」(仮)

第6部会

9:00～9:40 近藤信彰(東京外国語大学)

「19世紀後半テヘランの宗教的少数派：シャリーア法廷記録より」

9:45～10:25 後藤裕加子(関西学院大学)

「サファヴィー朝初期の首都タブリーズの王宮地区」

10:30～11:10 青木健太(お茶の水女子大学)

「イスラーム国(ISIL)ホラーサーン州の活動状況：ISILはその属州において勢力を
拡大するか」(仮)

11:15～11:55 梶山卓哉(龍谷大学J)

「英国外交文書から見たイスラーム革命後のイラン」

14:50～15:30 上原健太郎(京都大学J)

「マレーシアにおけるイスラーム型担保融資の特徴とその役割：顧客調査をもとに」

15:35～16:15 岩本(川村)藍(京都大学)

「イスラーム金融の民事紛争処理制度：先駆的な事例としてのドバイ・アプローチと
マレーシア・モデル」(仮)

16:20～17:00 安田慎(帝京大学)

「宗教観光におけるアントレプレナーシップをめぐる一試論：インド・ムンバイのイ
スラーム旅行会社Sを事例に」

第7部会

9:00～9:40 鷺見朗子(京都ノートルダム女子大学)

「『百一夜物語』の写本」(仮)

9:45～10:25 苗村卓哉(慶應義塾大学)

「ヒジュラ暦9～11世紀東アラブ世界におけるアルド：名士伝記集の数量的分析から」

10:30～11:10 野口舞子(お茶の水女子大学J)

「12世紀前半マグリブ・アンダルスにおける法学者のネットワーク」(仮)

11:15～11:55 ハシヤン・アンマール(京都大学J)

「イスラームにおけるハムル(酩酊飲料)の禁止：古典資料を用いた立法過程再構成の試み」

14:50～15:30 奥美穂子(明治大学)

「『王の祝祭』から近代国家祝典へ：オスマン帝国における王権祝祭の変容と契機」

15:35～16:15 近藤文哉(上智大学J)

「エジプトのマウリド：19世紀イギリス人の記述から」(仮)

16:20～17:00 竹村和朗(独立研究者)

「苗農場で働く：現代エジプトの沙漠開拓地における農業実践の一事例として」

第8部会

9:45～10:25 矢久保典良(千葉商科大学/慶應義塾大学J)

「日中戦争後期、中国ムスリム団体の憲政議論と「戦後構想」：1943年以降の言説を事例に」(仮)

10:30～11:10 役重善洋(大阪市立大学)

「日中戦争下における日本軍の宗教工作とシオニズム運動」(仮)

11:15～11:55 ヌールッラー・サット(アンカラ大学J)

「トルコ学術界における井筒俊彦の位置づけ：評価と批判」

5. 発表予定者の皆様へ

発表予定者の皆様には、3月4日(金)までに、(1)大会参加費の振込と(2)発表要旨原稿の提出をお願い致します。期日までにこの2つの条件が満たされない場合は、発表をお断りすることもありますのでご注意ください。

上記期日までに学会への入会手続を完了し、2016年度までの会費を納入していることも、発表資格条件の一部として定められております。期日までにこの条件が満たされない場合には発表をお断りすることもありますのでご注意ください。海外在住など理由から参加費の振込が難しい場合は別途ご相談ください。

なお、年次大会実行委員会事務局は、学会への入会手続き・会費の納入の代行はいたしません。下記URLを御参照の上、発表者ご自身で手続き等を行って下さいませようようお願い申し上げます。

日本中東学会公式サイト内「入会案内」URL：

<http://www.james1985.org/about/admission.html>

同「入会フォーム」URL：

http://www.james1985.org/about/admission_form.html

◇大会参加費等の振込方法

2月中旬頃に、暫定プログラムとともに大会への出欠通知、懇親会・2日目の弁当(昼食)の申込用紙を兼ねた郵便振替用紙が送付されます。発表者予定の皆様は、この振替用紙で下記の口座に3月4日(金)までに参加費をお支払いください。

懇親会および弁当の申込は任意ですので、発表を行うための要件ではありません。
なお、弁当につきましては当日の申込はお受けできません。

大会参加費は1,000円、懇親会費は6,000円（学生会員は4,000円）、2日目弁当代は1,000円です。なお、事前にお振込みいただいた諸費用は返却に応じかねますのでご注意ください。

振込先（郵便振替口座）

口座番号 00140-1-696367

口座名称（漢字）日本中東学会第32回年次大会実行委員会

口座名称（カナ）ニホンチュウトウガッカイダイサンジュウニカイネンジタ

◇研究発表要旨の執筆要項

以下の執筆要項（1）～（7）を御熟読のうえ、要旨の執筆をお願い致します。なお、企画セッションにて御発表の方については、代表者が全員の分をとりまとめたかたちでご送付下さい。

（1）要旨は大会当日配布される要旨集に掲載します。

（2）分量は、日本語による発表の場合、和文1,000字以内、英語による発表の場合、英文350 words以内とします。

（3）日本語による発表の場合には英文タイトル・英文要旨（350 words以内）を、英語による発表の場合には和文タイトル・和文要旨（1,000字以内）もつけて下さい。

（4）和文、英文ともに発表タイトル、氏名、所属（大学院生の場合はその旨を必ず明記のこと）、要旨本文の順序で書いてください。ただし、書式の統一を図るため、年次大会実行委員会が若干の修正を施す場合がありますのでご了承ください。フォント、行数等についてもこちらで決定します。

（5）英文のブラッシュアップやネイティブ・チェックを年次大会実行委員会が行うことはありません。各自の責任で行って下さい。

（6）アラビア語転写などの特殊文字は使用しないで下さい。

（7）書式なし（シンプル・テキスト）のファイルで、E-mailに添付して、3月4日（金）までに年次大会実行委員会事務局のアドレス（james2016.keio@gmail.com）にご送付ください。

6. 大会についての連絡先

日本中東学会第32回年次大会実行委員会事務局

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学文学部 長谷部史彦研究室

Tel : 03-3453-4511（代表）

Fax : 03-5427-1578（研究室事務室共用）

E-mail : james2016.keio@gmail.com

*可能な限りメールでご連絡・お問い合わせをいただければ幸いです。

（勝沼聡）

中東研究の国際交流—北米中東学会第 49 回年次大会参加記—

2015 年 11 月の第 49 回北米中東学会 MESA デンヴァー大会において、”State of the Art in Middle East Studies” (中東研究の方法の現状) と題するセッションに、本学会の派遣によって参加し、日本の中東研究の方向について報告し、中東研究の国際交流について意見交換を行った。セッションの報告とともに、国際交流の状況について振り返ることにしたい。

本学会と MESA との関わりについては、1988 年に「日本と中東」のパネルを企画した。1998 年にはイスラーム地域研究プログラムによってセッションが企画された。2003-04 年には、社会科学評議会 (SSC) の提唱によって、米国、日本、フランス、ロシアの中東研究の現状調査に学会として協力することになり、会員の研究分野や職業等について調査報告をまとめ、2003 年 MESA アンカレジ大会の「東アジアの中東研究」セッションで報告した (AJAMES、19/2 号に掲載)。また、2002 年から中東研究世界大会 (WOCMES) が、マイヤー-Günter Meier 氏 (ドイツ中東研究学会 DAVO 及び欧州中東学会 EURAMES 会長) の主導によって 4 年ごとに開催されるようになり、日本中東学会では、第 1 回マインツ、第 2 回アンマン、第 3 回バルセロナ、第 4 回アンマンにおいて、いずれもセッションを企画するなど積極的な参加をしてきた。今回のデンヴァー大会のセッションは、アンマン会議の WOCMRS 評議会において、WOCMES の活動を地域的に広げていくために、MESA 大会でセッションをもつことが提起され、それをうけてのもので、JAMES は AFMA との橋渡しの役割が期待されている。

当該セッションは、大会の 3 日目 11 月 23 日に開催された。Thematic Conversation という形式のもので、報告者が問題提起を行い、参加者との意見交換に主眼をおいたものである。事前に報告要旨を MESA のウェブサイトへ提出したのは 4 名の報告者のうち 2 名だけだったので、集客を心配したが、10 名以上の参加があった。

司会 (企画者) のクック Miriam Cook (Duke University) からの上記のような趣旨説明ののち、ひとり 10 分で報告を行った。まずマイヤー氏が WOCMES 発足の経緯とねらい、およびドイツにおける中東研究について報告した。WOCMES は、Philipp Khoury 氏 (当時 MESA 会長) の「もうひとつの世界大の大会」というよびかけより、99 年に欧米の中東学会代表による準備会議が開催され (筆者は佐藤次高日本中東学会会長の代理で出席)、モロッコなど複数の開催立候補のなかから、マインツ開催が決定された。ドイツの中東研究は、ドイツ東洋学協会 DMG (1884 年設立) が文学や思想研究に重点がおかれていたのに対し、1973 年の石油危機や 79 年のイラン革命を契機として、地理学者ヴィルト Eugen Wirth らにより、現代研究の必要が提起され、2001 年の 9.11 事件によって、東洋学研究は根本的に転換し、特定のテーマにそった学際的研究を進めるためのセンターが設置された。2011 年の「アラブの春」以降、この傾向は加速され、PhD 生らへの研究助成が行われている。

第二の報告者ドゥギエム Randi Deghuilhem 氏 (Aix-Marseille University) は、

以下のように報告した。フランスの中東研究は、オスマン帝国とのキャプチュレーション問題から始まり、アジア学協会が設立され、1830年代には中央アジア研究も開始された。大学・研究機関は、CNRS に統括されており、私立の大学や研究機関はない。フランスには、人口の約10%をムスリムが占めており、15年1月のシャルリ・エブド社襲撃事件につき、11月13日の同時爆破事件があり、これらは中東研究というよりもつばら「反テロリズム研究」として扱われている。

3人目は、北京外国語大学でアラビア語を教える牛子牧氏で、クック氏の知人として飛び入りで報告を依頼された。中国では、3つの大学にアラビア語の博士課程があり（北京外国語大学、上海外国語大学、北京大学）、語学教育に比重があり、それ以外の分野は扱われず、大学教員も当該大学の出身者であることが多く、地域研究のような広がりや欠けている、とまとめた。

筆者は、イスラーム地域研究プログラム（東京大学 1997-2002、人間文化研究機構 2006-2016）の活動をふまえ、比較の手法による地域研究の提言を用意していたが、前日の報告者の打合せで歴史と現状にウエイトがあると気づき、急きよ原稿もスライドも変更した。これまで筆者が発表したものの再利用ではあったが、明治初期からの日本の中東研究の歴史・特徴・現状を報告したのち、2015年以降の変化として、つぎの3点を指摘した。第一は、2015年9月に国会で成立した「安全保障法制」によって、日本は、集団的自衛権にもとづき米国などと共同軍事行動をとり、海外への自衛隊派遣と武器使用を行いうること、これによって中東諸国との関係が変わること、第二に、10年にわたるNIHUイスラーム地域研究が終了し、今後は、より現代の問題にフォーカスした「問題解決志向型」の研究プログラムに再編成されること、第三に、文部科学省は、人文科学分野の教育研究について、各国立大学法人に見直しを要請していること、を指摘した。

最後の報告者アブデュルハーディー Rabab Abdulhadi (San Francisco State University) は、社会科学研究所とパレスチナ問題の重要性を指摘し、今大会のプログラムの表紙の挿絵が「カウボーイ」であることを、植民地主義の再来として批判した。

他の参加者との質疑応答のあと、次回第5回WOCMESの開催地について、意見交換を行い、解散となった。

MESA大会に参加するのは、1999年のワシントン大会以来、ちょうど10回目となる。毎年11月下旬の感謝祭の前週の土曜日から4日間、ワシントンとそれ以外の都市で交互に開催される。マリOTTやシェラトンといった大ホテルを会場とし、200以上のセッションが生まれ、約1000人前後が参加する。北米以外の会員も多く、また中東出身者で北米の大学で教員や院生として研究しているものも多い。朝8時半から2時間単位で4つの時間枠があり、20近くのセッションが並行して開催され、さながら中東研究の百貨店である。参加者は、プログラムを片手に、関心のあるセッションと会場を探して、うろつくことになる。私も、自分の専門以外のセッションにも参加し、ひろく中東研究の動向をウオッチすることにしている。今回、シリア問題の特設セッションは、大ホールを会場とし、200名以上が参集した。現代シリアを専門とする研究

者がこれほどいるわけではないが、私と同様に、専門研究者の情報や意見を聞いておこう、ということなのだろう。

大会の恒例行事として、会長の演説 Presidential Address と懇親会がある。前者は、大ホールに数百名の聴衆があつまり、スタンディング・オベーションで終わる。会期中のブックフェア会場には、出版社や研究機関がブースを構え、出版物を展示し、販売・配布する。定価の2割から5割の割引があり、参加者の集いの場ともなっている。今回は、ブリル社から刊行をはじめた Islamic Area Studies シリーズが展示されていた。日本からの参加者としていつも数名で、今回の発表者は3名だけで、前年の WOCMES アンカラ大会が60名近くの発表者がいたことと対照的である。

MESA の発表者・参加者が少ないのはなぜか？第一の理由は発表のハードルであろう。発表するためには2月中旬までに要旨を提出し、査読をうける必要がある（落選もありうる）、通過しても寄せ集めのようなセッションに放り込まれることもある。第二は見返りである。一つのセッションは、発表者4名、ディスカッサント1名で生まれ、一人の発表時間は15分から20分に限られ、報告者のほとんどは、口頭のみ、またはスライドを併用した発表となる。日本の学会や研究会では、詳細なレジュメを配布し、エビデンスとなる資料類を提示することが必須であるが、そのような時間はないし、レジュメを配布すると盗用される恐れがあるので配布しないのだ、ともいわれる。このため、限られた時間で起承転結の鮮やかな発表もあれば、自説を語っただけのものもあり、玉石混淆にならざるをえない。セッションによって、あらかじめ主題や発表者をきめてグループとして応募するタイプがあり、こちらのほうが充実している。しかし単発の発表をするだけの参加になると、航空賃・宿泊費・参加費というコストに比べベネフィットが低いことになる。

MESA 大会には、以上のようなメリットとデメリットがあるが、私自身は、この数年少々の無理をしながら、毎回なにかを報告し参加するようしてきた。セッションでは自分の研究に係る未知の情報に出会う。大学で中東・イスラームをどう教えるか、というようなパネルも教育者として有益である。日本の研究状況についてのチラシや刊行物を携え、それを撒いてきた。ブックフェアや懇親会などで、旧知の研究者と研究の様子だけではなく、大学教育や政治動向などについても、情報や意見を直に交換できる。一昨年 Sociology of Islam というメーリスの主宰者と知り合ったが、毎日研究会や公募情報やディスカッションが配信されてくる。

16年前にはじめて MESA 大会で発表したときは、他流試合でガチガチに緊張していた。近年は顔見知りの研究者が増えたので、十数時間のフライトもさほど苦にはならなくなってきた。とはいえ、バトンをわたす時期にきたと思いながら、この報告を書いている。今年が MESA の 50 回大会である。

(三浦 徹)

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 31-2号、32-1号 現在編集中

現在、31-2号の編集作業が年度内の刊行を目指して大詰めに入っています。また、32-1号につきましては、昨年12月1日に投稿を締め切りました。投稿数は、12本（うち英語3本、日本語9本）でした。間もなく審査作業が完了するところです。

2. 32-2号 投稿募集中

32-2号の締切は6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部史学科 粕谷元気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames-editor@james1985.org

(AJAMES 編集委員長 粕谷 元)

寄贈図書

【逐次刊行物・ジャーナル等】

西芳実・箱崎香織編『緊急研究集会報告書 東南アジアの移民・難民問題を考える：地域研究の視点から』地域研究コンソーシアム (JCAS) (JCAS Collaboration Series12)、京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)、東南アジア学会、日本マレーシア学会 (JAMS)、東京大学グローバル地域研究機構持続的平和研究センター CDR、2015年。

Hidemitsu Kuroki ed., *Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Theran, Aleppo, Istanbul, and Beirut*, Tokyo: Research Institute for Languages

and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies (Studia
Culturae Islamicae No.102/MEIS Series No.19), 2015.

『アラブ・イスラム研究』第13号(2015年)。

Mediterranean World (『地中海論集』), No. 22 (2015).

『季刊アラブ』No.155 (特集 プーチンの野望) (2015年冬)。

(森山央朗事務局長)

会員の異動 (2015年11月以降)

【新入会員】

花岡 美海

池端 蒔子

石郷岡 宏記

Khashan Ammar

宮川 光國

梶山 卓哉

Gray Matthew Barry

成地 草太

Sat Nurullah

【所属先・連絡先の訂正・変更】

堀尾 藍

清水 学

丸山 英樹

佐野 東生

林 玲子

柿崎 正樹

今井 宏平

近藤 久美子

高尾 賢一郎

【退会会員】

稲田 博

(森山央朗事務局長)

事務局より

遅ればせながら、昨年の11月下旬に会員名簿とニューズレターの第31回年次大会報告号(140号)の印刷版を会員の皆様に発送しました。すると、名簿の記載事項の不備などについてのご指摘が複数寄せられ、汗顔の至りです。とはいえ、何とか1年分の業務を一周したように感じています。会費納入用の郵便振替口座の住所移転も、やっと完了しました。これから、今年5月14日、15日に慶應義塾大学で開催される第32回大会の際の総会に向けて、準備していくことになります。会員の皆様におかれましては、大会への積極的なご参加、ならびに、お早めの会費の納入、ご住所・ご所属を変更された際には、確実に事務局までご連絡くださるなど、益々のご協力をお願い申し上げます。

(森山央朗事務局長)

編集後記

早いもので、2015年度最後のニューズレターです。3年間、ニューズレターの編集をやらせていただきましたが、一向に慣れません。毎回、四苦八苦しておりますが、来年度もまた、やらせていただきます。どうか、よろしく願いいたします。

来年度早々には、慶応大学にて年次大会が開催されます。楽しみですね。みなさま、ふるってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

(松本弘)